

社会学におけるモデルの役割について

——理論と実証を架橋する——

学習院大学 数土直紀

1 問題の所在

本報告では、社会におけるモデルの役割について検討する。ちなみに、ここでモデルという言葉で念頭に置かれているのは、一つは経験モデルであり、もう一つは理論モデルである。経験モデルも、理論モデルも、何らかの意味で現象の定式化を目指しているという意味では共通している。しかし、社会現象との関わりを考えてたときには、両者の間には大きな違いが存在する。その違いを理解し、積極的に利用することで、理論から経験的データを説明できるようなモデルを導くことが可能になり、逆に経験的なデータから理論を構築することも可能になる。本報告が主張しようとしていることは、このことである。

2 “分布を説明する”ことと“現象を説明する”ことの差異

経験モデルの場合、そこではターゲットとされた変数（従属変数）の分散をできるだけ多く説明することが目的とされる。いいかえれば、いくつかの変数を組み合わせることで従属変数の分布を再現できることができれば、それがよいモデルとなる。一方、理論モデルの場合、明らかにされた分布を生み出すようなプロセスはいったいどのようなものであるのか、これを明らかにすることが目的とされる。いいかえれば、分布の背後にある生成メカニズムに焦点をおいているといってもよいだろう。したがって、経験モデルも理論モデルも、変数の分布という形で示される社会現象に同じように焦点を当てている。その一方で、経験モデルは分布そのものに関心をもつ一方で、理論モデルは分布の背後にある生成メカニズムに関心をもっている。

3 研究事例

以上の主張を端的に表現している研究として、本報告では2つの事例を取り上げ、検討したい。

ひとつは、浜田宏 が提示した反復投資ゲームのモデル(Hamada 2004; 浜田 2005)である。一般に、所得分布は対数正規分布に近似できることが知られているが、しかし対数正規分布に近似できることを示しても所得格差の構造を明らかにしたことはならない。所得格差の構造を明らかにするためには、そのような分布が生成されるメカニズムを明らかにする必要がある、いわば浜田が提示した反復投資ゲームは所得格差を説明する理論モデルの役割を担っていると理解できる。

もう一つは、数土が提示した信頼の社会ネットワークモデル(数土 2016; Sudo 2016)である。数土は、各国の民主主義の成熟の度合いを示す民主主義指数とその国の一般的信頼の間に2次曲線で近似できる非線型な関係が存在することを示した。しかし、民主主義と社会関係資本（一般的信頼）の間に非線型な関係があることを示しただけでは、民主主義と社会関係資本（一般的信頼）の関係を明らかにしたことはならない。両者の関係を明らかにするためには、そのような非線型な関係が生成されるメカニズムを明らかにする必要がある。そして、数土が提示した信頼の社会ネットワークモデルは両者の（非線型的な）関係が生成されるメカニズムを明らかにする理論モデルの役割を担っている。

4 結論

このように、2つの研究事例は、理論モデルをうまく経験モデルに置き換えることで、あるいは逆に経験モデルから有意義な理論モデルを導出することで、経験的なデータを理論的に説明することが容易になることを示している。

文献（当日の配布資料にて明らかにする）